

Japanese Journal of Ichthyology

Vol. VII, Nos. 5/6

June 30, 1959

魚 類 学 雑 誌

第 7 卷 第 5/6 号

1959 年 6 月 30 日発行

---

Published by the Nippon Gyogaku Shinkokai

Tsukiji 5-chome, 1-banchi, Kyobashi,

Tokyo, Japan

---

新潟県魚類目録補訂 (VI)

本 間 義 治

(新潟大学理学部生物学教室)

Further additions to "A list of the fishes collected in  
the Province of Echigo, including Sado Island" (VI)

Yoshiharu HONMA

(Department of Biology, Faculty of Science, Niigata University)

前報に引き続き、新潟県産魚類として次の 17 種を追加掲載したい。このうち 1 種は淡水魚であり、また採集地が新潟県北部を越えて山形県南部にまで及んでいるものも 4 種含まれている。しかし、近年の対馬暖流水域の海況や\*、杉原 ('44)\*\* の調査物より考えると、この地方の魚類相は新潟県北部のそれとまず変らないと推定されるので、敢えて含めることにした。なお今回報告したカワリアナハゼについては、米国水産局の調査船 Albatross 号が 1906 年の周航の際、採集して以来、久しく見られなかつたものと思われ、再発見の記録として注目されよう。これで新潟県に分布する魚類は 481 種となった。

標本査定の機会を与えられた日本海区水産研究所の加藤源治・大内明両技官を始め、材料を提供された方々に厚くおん礼申上げる。

Family Salmonidae

1. *Oncorhynchus gorbuscha* (WALBAUM) カラフトマス N

産地：佐渡達者沖

新潟大学佐渡臨海実験所に保存された標本は、1958年4月12日に採られた体長 370.0 mm のもの。同年佐渡周辺の延縄、定置網、流網で多獲された。

---

\* 水産庁, 1958: 対馬暖流開発調査報告書 I~IV 及び付図

\*\* 杉原千代太, 1944: 山形県産魚類 (淡水並海産) 研究報告 (第 1 報, 種属方言篇) pp. 1-38. 謄写プリント

## Family Tachysuridae

- 2.
- Tachysurus thalassinus*
- (RÜPPELL) オオサカハマギギ S

産地： 佐渡海峡 225 m

1957 年 11 月に採られ、新潟県水産試験場に保存された 3 尾のうち、体長 375 mm の 1 尾は佐渡臨海実験所に寄贈された。本種が新潟県に産することは、すでに斎藤 ('58)\* が報告している。

## Family Cyprinidae

- 3.
- Pseudorasbora pumila*
- MIYADI シナイモロコ +N

産地： 新潟県十日町市

1957 年 6 月 22 日に採集された体長 43.0 mm のもの 1 尾で、本種が新潟県信濃川下流域に産することは、すでに鈴木 ('41)\*\* が触れている。佐渡臨海実験所所蔵。

## Family Syngnathidae

- 4.
- Trachyrhamphus punctatus*
- (KAMOHARA) ホシヨウジ +S

産地： 山形県鼠ヶ関沖 45 m

1958 年 6 月 13 日に採れた体長 128.0 mm のもの 1 尾。D. 18 ; A. 3 ; P. 14 ; C. 9 ; body rings 14+36。体胴は 6 角で胸鰭後方で膨化するが、尾部は 4 角となる。背鰭基部は隆起し、眼窩は突出する。吻には軽い鋸歯縁をもった小中央隆起線が眼前にある。皮膚には付属物や突起がない。肛門は背鰭第 3 軟条の下に位置する。体は褐色で体輪接合部は黒線を呈し、体には黒褐色の大大理石模様がある。胴の腹側は黒色で、胴体輪の下側方にはそれぞれ黒色の輪状斑紋が存在している。

原記載は高知県御置瀬市場より得た標本に基づいて行われており、本報した分が第 2 番目の記録となろう。日本海区水産研究所所蔵。

## Family Scombridae

- 5.
- Acanthocibium solandri*
- (CUVIER et VALENCIENNES) カマスサワラ S

産地： 佐渡達者沖

1957 年 7 月 18 日大謀網で漁獲されたもの 1 尾を目撃した (Fig. 1)。

## Family Carangidae

- 6.
- Trachinotus baillonii*
- (LACÉPÈDE) コバンアジ S

産地： 佐渡水津沖

1957 年 12 月に大謀網で漁獲された体長 190 mm のもの 1 尾。日本海側からは、始めて記録されることになろう。佐渡臨海実験所所蔵。

## Family Lumpenidae

\* 斎藤 讓 1958: 越後糸魚川でとれたオオサカハマギギ. 採と飼., xx (8), 255—256.

\*\* 鈴木徳義 1941: イシモロコ *Pseudorasbora parva* (T. & S.) に於ける追星発現形式並びにその *P. pumila* M. の発現形式との相異に就て. 博雑., xxxviii, 5—12.

7. *Leptoclinus  
riocellatus* MA-  
TSUBARA ミツボシ  
ギンボ T

産地：山形県  
加茂沖 94 m

1958年7月13  
日に採られた体長  
42.9mmのもの1  
尾。D. XLII ; A  
II, 24; V. I, 3; P.  
8+5。背鰭は棘条  
のみよりなり、最  
前の3~4棘は遊



Fig. 1. *Acanthocibium solandri*  
(CUVIER et VALENGIENNES), from off Tassha of  
Sado Island. × 3/50

離していない。鰓膜はほとんど離れ、峡部とは僅に付着している。側線はないが、頭部には眼の周囲、前鰓蓋骨などに孔器がある。上顎は下顎より延長し、臼歯や犬歯はない。口は斜位で口唇は厚く、上顎は眼直下に達する。胸鰭は長く下部の5軟条は単一で太く、特に最上部の2本が長い。尾鰭は背・臀鰭と離れ、後端は円形を呈する。吻端から眼を横切り鰓蓋後端に達する巾広い暗褐色帯があり、背鰭には3個の1大黒色円点が存在する。臀鰭は黒灰色で縁辺は白く、胸鰭と尾鰭は淡色で、それらの基底は褐灰色である。体側には5個の不規則暗褐色斑がある。

従来、駿河湾熊野灘から採集されており(松原, '43)、日本海側からは初めての記録となろう。日本海区水産研究所所蔵。

### Family Gobiidae

8. *Zonogobius boreus* SNYDER ミサキスジハゼ S

産地：新潟県岩船沖 26 m

1958年7月30日に採れた体長5.0及び19.0 mmのもの2尾。D. VI+10; A. 9; scales 26。日本海区水産研究所所蔵。

9. *Chaeturichthys sciistius* JORDAN et SNYDER コモチジャコ T

産地 新潟市沖 55 m

1958年4月2日に採れた体長33.0から60.6 mmのもの9尾。D. VIII+I, 13; A. I, 13。下顎に3対の鬚があり、第1背鰭の5~8棘にかけて1黒斑が見られ、尾鰭にも4~5条の垂直黒斑が存在する。日本海区水産研究所所蔵。

10. *Sagamia genionema* (HILGENDORF) サビハゼ S

産地：山形県温海沖 48 m

1958年7月30日に採れた体長29.0から40.0 mmのもの10尾。D. VIII+15; A. 14; P. 20; Scales ca. 54。日本海区水産研究所所蔵。

11. *Pterogobius virgo* (TEMMINCK et SCHLEGEL) ニシキハゼ S

産地：佐渡尖閣湾

1958年8月29日に採れた体長202.0 mmのもの1尾。D. VIII+I, 27; A. 28。すでに日本海側では富山湾から報告されている。佐渡臨海実験所所蔵。

### Family Taenioididae

12. *Ctenotrypauchen microcephalus* (BLEEKER) アカウオ S

産地：新潟市沖 50 m

1958年4月2日に採れた体長 98.0 mm のもの1尾。背鰭棘数は6，側線上の鱗数は55枚。主鰓蓋骨上縁に鰓腔から分離した1腔所を開く1凹所があり，左右の腹鰭は癒合するが後方は2葉に分れている。本種も富山湾に分布することが明らかにされている。日本海区水産研究所所蔵。

#### Family Tetraodontidae

13. *Fugu xanthopterus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) シマフグ S

産地：佐渡多田沖 45~105 m

1957年3月延縄で釣れたもの1尾。佐渡松ヶ崎中学校所蔵。

#### Family Cottidae

14. *Ricuzenius pinetorum* JORDAN et STARKS マツカジカ +N

産地：山形県鼠ヶ関沖 45 m

1958年4月20日に採れた体長 13.0 から 46.7 mm のもの22尾。D.  $\mathbf{K}$ , 15; A. 12; V. I, 3; P. 16; scales 35~36。最後の鰓弓の後に裂孔がない。左右の鰓膜は相癒合し，峽部と遊離している。上・下顎はほぼ同長で，歯は鋤骨と口蓋骨にも存在する。前鰓蓋骨の最上棘は単一型で多少上方へ鈎状に曲る。肛門は腹鰭基部より遙か後方に位置する。両眼隔は凹形で，眼上には皮質突起がない。頭も体も完全に粗雑鱗を被り，背鰭の棘条や軟条，主上顎骨の露出部にも鱗があるが下唇，頤，鰓膜，腋下にはない。

従来松島湾，函館，船川，富山湾から採集されておるので，北日本一帯に分布しているものであろう。日本海区水産研究所所蔵。

15. *Atopocottus tribranchius* BOLIN カワリアナハゼ +N

産地：新潟県間瀬沖 125 m

1958年6月25日に採れた体長 24.3 から 27.1 mm のもの5尾で，このうち1尾は渡部正雄博士に送付した。体長 25.7 及び 27.1 mm のものの測定結果を示すと，D. VII+11; A. 7~8; V. I, 2; P. 17。体長は頭長の 2.6 及び 2.7 倍；体高の 4.3, 5.3 倍；体中の 4.6, 5.1 倍；吻端から肛門までの距離の 1.9, 1.9倍；同じく背鰭基部までの距離の 2.1, 2.1倍；頭長は胸鰭長の 1.4, 1.5倍；腹鰭の 1.8, 1.9 倍；眼径の 2.7, 2.8倍；眼径は尾柄高の 1.9, 2.1倍；吻長の 1.6, 1.6 倍。体は僅かに側扁し，背鰭前部で最も高いが，切断面は半円に近い。鰓条骨は6本で鰓は3対あるが，最後の鰓弓に鰓弁がなく，鰓弓の後に鰓裂がない。鰓耙は短瘤状を呈し，鰓膜は広く癒合し峽部から離れている。前鰓蓋骨棘は4本で良く発達しており，最上棘は肥大し分岐する。眼の上方の皮質突起や鼻棘，頭部背面棘はない。心臓型の歯が両顎のほか口蓋骨や鋤骨にもある。鱗は側線の前方形にのみ認められ，その位置は第1背鰭の後端には達しない。体は黄褐色で，褐色の不規則斑が頭，胴，尾に散在するが，胸部域のものは癒合して垂直斑となつている。第1背鰭の後方には赤褐色斑があり，第II背鰭は褐色で粗に彩られる。腹鰭臀鰭は無色であるが，胸鰭上方にも赤褐色斑が存在する。

非常に小型のカジカで体長 30 mm 未満であるのに，かなり熟した卵をもつていた。また Albatross 号の採集品 11 尾については，8 尾に Lernaeidae 科の Copepoda が眼に寄生していたというが，本例の場合も同様位置に未知のそれが（椎野季雄教授談）5 尾中 2 尾に寄生していた。完模式標本も副模式標本も 1906 年に Albatross 号が巡航の際，新潟灯台沖約 21 湊 (38°12'~16' N; 138°52'~54' E) 深さ 61~71 英尋から採集され，1936 年 BOLIN によつて新属新種で他

属との類縁不明の奇妙なカジカとして記載が行われた。しかし日本の魚類学者は、全く見参する機会が無かつた模様である。今回再び新潟市近郊沖のほぼ同じ深度より得られたので、この標本に基づき本科魚類の研究者による詳細な解明を期待したい。日本海区水産研究所所蔵。

### Family Aspidophridae

#### 16. *Anoplagonus inermis* (GÜNTHER) ナメトクビレ N

産地：佐渡多田沖 225~300 m

1957年2月に採れたもの3尾で、このうち1尾は佐渡松ヶ崎中学校に、また体長144.0及び158.1 mmの2尾は筆者の手許にある。D. 5; A. 4~5; V. I, 2; P. 9; pores on lateral line 43; plates on lateral line 43。体長は頭長の5.7及び5.6倍; 体中の9.7, 9.0倍; 胸鰭長の7.9, 7.7倍; 吻端から肛門までの距離の3.8, 3.8倍; 同じく背鰭基部までの距離の1.7, 1.7倍; 頭長は体高の2.6, 2.4倍; 尾柄高の7.3, 8.1倍; 腹鰭長の3.4, 3.7倍; 眼径の4.9, 4.8倍; 吻長の3.6, 3.8倍; 吻長は両眼隔の2.0, 2.3倍である。体は細長いが頭は縦扁して広く、体の前方部も縦扁するが尾部は側扁し、骨盤には棘がない。鰓膜は峡部と離れ、口は小さく前端にあり吻は鈍い。下顎は上顎より僅かに突出し、鼻棘並びに背鰭棘はない。側線は前方部で高いが、ほぼ体側中央部を直行し、尾鰭は円形を呈する。体色は褐色で、吻端から眼を横切り鰓蓋上隅に達する黒褐色斑があり、これは不連続のまま体側を走る。背鰭後半に黒色点がある他、胸鰭や尾鰭にも黒褐色斑があり、臀鰭にも僅かに1小黒点が認められるが、腹鰭は淡色である。背鰭基部は臀鰭基部の直上に始まる。

日本海を始め、環北太平洋地区に広く分布しているものであろう (Fig. 2)。

### Family Moridae

#### 17. *Laemonema nana* TAKI ヒメダラ +S

産地：新潟市沖 50 m

1958年4月20日に採られた体長53.8及び32.8 mmのもの2尾。D. 5+48; A. 48; V. 1; P. 20; C. 22。上顎は下顎より突出し、頤に1本の鬚がある。主上顎骨、前鰓蓋骨、眼の周囲などに1列に並んだ孔器が存在する。腹鰭は甚だ細長く、1本の2又した軟条よりなる。側線は胸鰭上方で急に下方に曲り、それ以後は体側を直行するが、彎曲部には小乳頭状突出物が並んでいる。

本種は滝('53)によつて瀬戸内海の20~30 mの浅海から報告されたが、今回の例を併せるとこれは本邦の浅海砂泥底に棲息分布している小型魚と考えられる。日本海区水産研究所所蔵。



Fig. 2. *Anoplagonus inermis* (GÜNTHER),  
from off Ohta of Sado Island.  $\times 2/3$

なお、拙著('57)“新潟県魚類目録補訂(V)” p. 112の21の項に次を追加する。

## Family Liparidae

*Liparis punctulatus okadai* (TANAKA)      ホシビクニン      T

産地：佐渡達者湾

1957年7月12日に岩礁帯より採集したものの1尾。佐渡臨海実験所所蔵。

## Literature

- ABE, T., 1955 : New, rare or uncommon fishes from Japanese waters. III. Description, redescription and records of rare fishes of the genus *Liparis*. Bull. Biogeogr. Soc. Jap., xvi—xix, 319—325.
- BOLIN, R. L., 1936 : New cottid fishes from Japan and Bering Sea. Proc. U.S. Nat. Mus., lxxxiv (3000), 25—38.
- CLEMENS, W. A., and G. V. WILBY, 1949 : Fishes of the Pacific coast of Canada. Fish. Res. Bd. Canada, Bull. lxviii, 368 pp.
- JORDAN, D. S., and J. O. SNYDER, 1901 : A revision of the gobioid fishes of Japan, with descriptions of twenty-one new species. Proc. U.S. Nat. Mus., xxv (1244), 33—132.
- , and E. C. STARKS, 1904 : A review of the cottidae or sculpins found in the waters of Japan. *ibid.*, xxvii (1358), 231—335.
- KAMOHARA, T., 1952 : Additions to the offshore bottom-fishes of Prov. Tosa, Japan, with description of two new species. Res. Rep. Kochi Univ., i (6), 1—3.
- MATSUBARA, K., 1943 : Ichthyological annotations from the depth of the Sea of Japan, I—VII. Jour. Shigenkagaku Kenkyusyo, i (1), 37—81.
- TAKI, I., 1953 : On two new species of fishes from the Inland Sea of Japan. Jour. Sci. Hiroshima Univ., B, Div. I, xiv (14), 201—210.
- WATANABE, M., 1958 : Studies on the cottid fishes of Japan. 467 pp. 124 pls. 222 figs. 118 tables. Tokyo (in Japanese).

## Résumé

The writer has furthermore enumerated seventeen unrecorded species and one uncommon subspecies of fish with brief descriptions, which are to be newly added into a list of fish of Niigata Prefecture and its adjacent waters, the Sea of Japan. Here the writer has checked 481 species of fish from the waters around Niigata prefecture.

Among the fish to be added herein, there is a small strange cottid fish, *Atopocottus tribranchius* BOLIN 1936, as the second record which has been only obtained from the offshore of Niigata City during the cruise of the U.S. Bureau of Fisheries steamer "Albatross" in 1906.